

4 月度月例研修会 曾爾高原と屏風岩を背景とする 山桜の群生地を訪ねる

太田 和則

今回は「日本で一番美しい村」を宣言した奈良県の東北、三重県境に接する曾爾村を訪れることになった。総員 28 名を乗せたデラックスバスは快晴のもと、奈良商工会議所前 8 時出発。県道 80 号線から針インター経由、国道 369 号線に入り、ファームガーデンを経て曾爾高原に建つ国立青少年自然の家で降車した。

曾爾高原は倶留尊山から亀山を結ぶ尾根の西麓に広がる。秋は銀色に輝くススキの穂で一面覆われることで有名だが、春から夏にかけては青い絨毯が敷かれたような爽快な景色になるそうだ。今日はまだ少し早かったようだ。

亀山峠まで登る組と草原を散策する組とに分かれる。亀山峠からの眺望はすばらしい。住塚山、国見山、兜岳、鎧岳、屏風岩、といった曾爾の山々が連なるさまを眺望できた。曾爾三山の切れ落ちた柱状節理の岩壁は、国の天然記念物に指定されている。マグマが地表で冷えて収縮し、玄武岩や安山岩では五角形の柱状ができるそうだ。

草原散策組は高原中央にある「お亀伝説」が残るお亀池を一回りし、約 1 時間の散策を楽しんだ。

次は、今回のメインとなる**屏風岩公苑**に向かう。青蓮寺川を渡り、30 分ほどで公苑駐車場に着く。心配していた急勾配の坂道は高度差百メートル弱だが、直登で思ったよりシンドイ。悪戦苦闘しながらも全員無事に公苑に着いた。登り切って自信につながった人もいたようだ。

桜の盛りは過ぎていたものの、山桜特有の風情を残して、我々を待っていてくれたようだ。しかしミツバツツジは今が盛りの満開だ。

ビニールシートを敷き、若手に担ぎ上げてもらったビール・酒・焼酎・下村さん寄贈のスパークリングワインなどを前に、古川さんの乾杯の発声で「花見」の宴会が始まる。

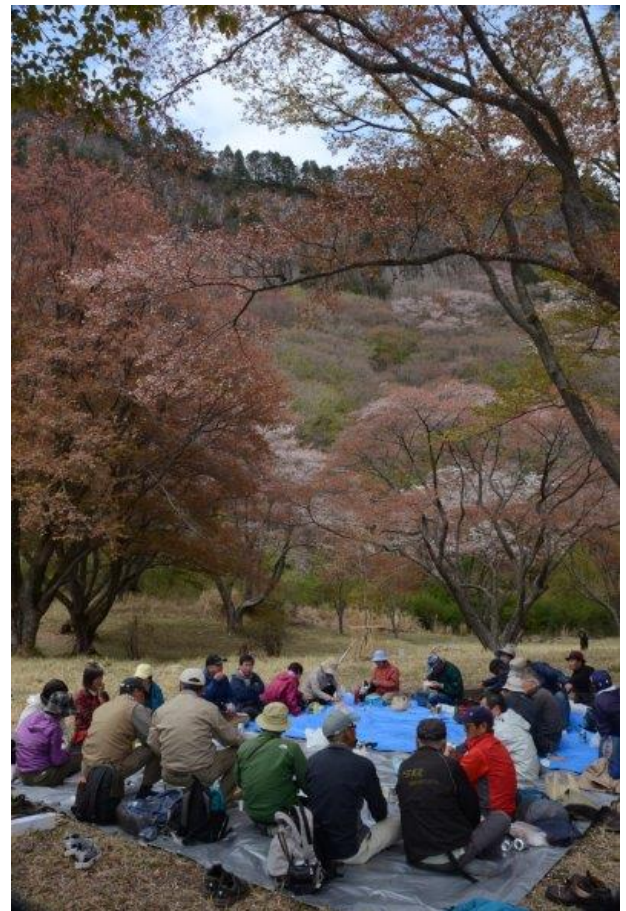
“カンパーイ、ウマ〜イ”。あっという間に時間が経ち、花見もそこそこにはほろ酔い加減で急坂を下る。

桜の花の満開時期は少々過ぎてはいたが、親睦の花は満開・満開であった。“まこて よかとでござんそ” “チェッソ〜”

〈亀山峠から見た曾爾高原〉



〈屏風岩公苑の山桜と宴会〉



皆さん大変お疲れ様でした。大変楽しい研修会でした。